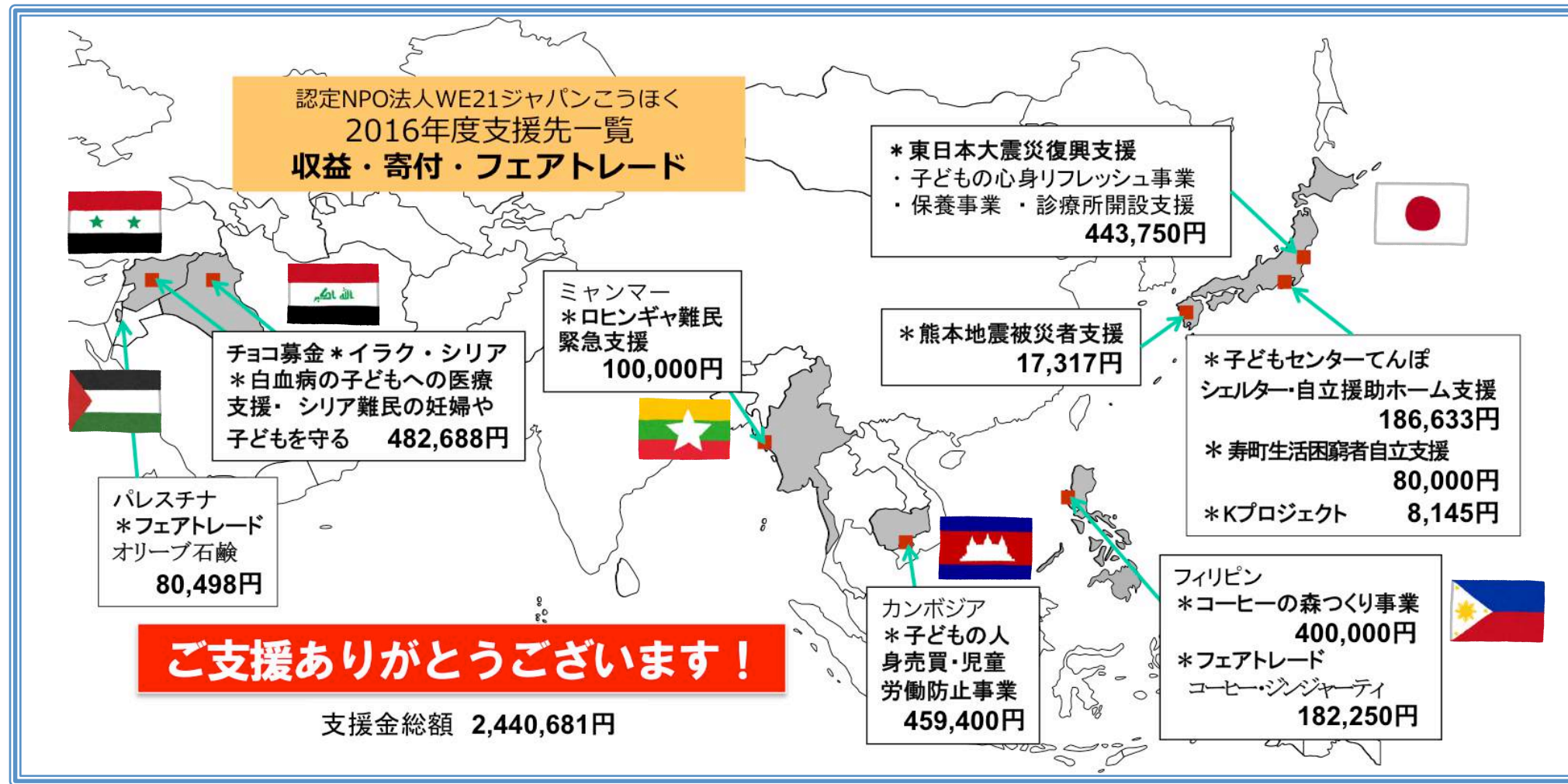




インドモニタリングツアーにて



主な活動指標

会員数	57名
WE ショップ事業	16,184,800円
寄付者数(延べ人数)	5,261名
ボランティア数(延べ人数)	1,847名
民衆協力 総額	2,440,681円
収益金より	1,449,928円
店頭募金・寄付金	688,005円
フェアトレード	262,748円

水不足への備え(フィリピン)



「インドモニタリングツアー2/13~2/20 報告と支援終了に向けて」

インドDRCSCプロジェクト「農村地域女性のエンパワーメントを目的とする既存プロジェクトの追加活動(3か年計画)」の3年目にあたる最終年の様子を見てきました。WEの支援ではバグナンとパトールプロティマの2つの地域をカバーしています。受益者はカースト外の貧困層、少数民族、土地を持っていない農民たちで農業の日雇いで生計を立てています。貧しい農村地域の女性が少しでも生活向上できるように、3年目のプロジェクトではジェンダー・食品加工製品のパッケージ・裁縫・ケーシ織・池掘り・植林などの研修を行ってきました。

パトールプロティマのマトンギニグループは15年前にでき種の保存・アヒルと鶏のヒナのかえし方を教わり、グループのローンで池掘り・鶏の飼育・葉タバコを育てました。女性達はどこかのグループに属して「お金はまだ足りないけれど、経済的な問題を乗り越えて強くなってきている」という言葉に私たちのほうがカづけられました。

裁縫グループではWEのサポートで買ったミシン1台と他から借りた3台で研修を受け、型紙おこしから製品までできるようになりました。けれどまだ売りにだせるほどではないのでもっと研修をしたいという希望も出て、さらに技術が進むことを願っています。

バグナンのショップサティグループは3年目でマッシュルーム栽培・栄養菜園・バーミコンポストなどを教わり、グループローンで牛、やぎ、アヒルを飼いました。グループで悩みを話しあったりして、リーダーは「自分の知っていることは皆に教える。そしたら皆が平等になる。自分だけ知っている自分だけが偉いと勘違いする」と。私たちが勉強になりました。ゴンジョ織物グループは織の技術が向上してこれから先販路を広げていくことが課題です。この3年間で栄養菜園ができ野菜を食べられるようになり、池掘りや植林で労働軽減もされ収入向上の道も少しずつ見えてきました。

この3年間のプロジェクト終了に伴い、こうほくでは11年続けてきたインド支援を終了することになりました。女性には権利がないと思っていた人たちが女性の権利を知り、収入向上の道を探り、研修によって少しずつ自立への道を歩み始めています。

これからも貧しさを乗り越えて女性達の自立が進むよう願ってやみません。

[長久保幹子 記]



福島支援

一年を通じて取り組みました

「3.11を忘れない」キャンペーン

5月7月9月11月1月3月の11日前後に福島を中心とした物産の販売に取り組みました。また3月は9日(木)~11日(土)の大倉山・日吉の両店の売上げ253,916円をいわき放射能市民測定室たらちねに寄付しました。大倉山店では311円均一を、日吉店では2点で311円などを企画し、支援とお買得が直結しお客様に好評でした。福島からの取り寄せ品の販売も、楽しみに待っていてくださるお客様が増えています。



横浜北エリア合同で開催しました

「いわき放射能市民測定室たらちね報告会」

2月25日(土)9時45分~11時45分ハーモニーみどり会議室(緑区中山)にて総勢51名、こうほくからは10名が参加しました。たらちね事務局長の鈴木薫さんから2011年原発事故後に設立してから現在に至るまでの経過を伺いました。地域住民の要望に応じ食材に含まれる放射能、人体への内部被曝などを測定したデータの提供や被曝の実態を知らせるために測定室のデータを公表しています。今なお放射線量が下がらず住民は不安な生活を強いられています。鈴木さんは「子どもたちの未来のために今やるべきこと、今できることを実行します。」とこやかに話されましたが、聞き手の私たちも「他人ごとではなく何かしなければ…」との思いを強くしました。

